

2018年度 事業報告書

特定非営利活動法人全国こども福祉センター

1 事業実施の方針

特定非営利活動法人全国こども福祉センター（以下、本法人）は、援助機関に訪れない、利用しようとしないう子ども・若者に対してアウトリーチを実施して人間関係づくりをおこない、メンバーとの社会活動をとおして、支援の受け手から担い手へのシフトを目指した。とくに、平成30年度は下記の重点項目に取り組み、事業を展開した。

(1) 支援の受け手から担い手へのシフト

発達や年齢に応じたかかわりをするが、基本的には子ども・若者を支援の担い手として迎え入れるように心がけようとした。所属したメンバーには、活動を通じて、社会との接点をつくり、観察や分析する力を身につけて、どのように他者や社会と関わるか考えてもらう機会とした。普段のかかわりを基本として、適宜、個別相談や家族支援等も行った。

(2) 広報・発信活動

アウトリーチは直訳すると「届ける」という意味がある。本法人は、子どもや環境に対して「情報発信」を積極的にこなした。しかし、支援団体特有の当事者を「売り物」にするような広報活動が存在するなかで、本法人がセンターの「価値」をどのように市民に伝えるかが課題となった。子どもの福祉は市民の利益にもつながるはずだが、共感や支援を喚起するには、目に見えるわかりやすい支援対象者像が求められる。貧困ポルノは、とくに10代にとって、周囲の人間関係づくりに強く影響するため、貧困ポルノに依拠せず、周囲から協力を募る手法を検討してきた。センターの活動の意義は、受益者・当事者以外の人にはわかりにくいいため、効果的な広報・発信活動をするために、センターにかかわる全員が自分のことばで言語化し、発信する必要がある。

本法人は、次代を担う子ども達や大人も対象にした教育・文化活動や交流事業を組織的にを行い、以って地域力の底上げや社会福祉の増進に寄与することを目的として、下記の事業（本法人の定款第5条第1項）を実施した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ①街頭パトロール・相談事業
- ②居場所づくり事業
- ③まちづくり事業
- ④シェルター・自立支援事業
- ⑤その他非行防止に関する事業

①～⑤と事業別に分けているものの、各事業内容が独立しているわけでもなく、密接に関

連しており、事業ごとに独立している参加者やスタッフも存在せず、按分するのも経理面においても妥当ではないと考え、27年度から小項目ごとに分けず、会計を統一している。

①街頭パトロール・相談事業と②居場所づくり事業は便宜上、その名称を使用しているが、①はフィールドワークをとおしたアウトリーチ・社会教育活動のことで、②は、(アウトリーチをとおした) スポーツ・交流活動のことである。

事業に関する評価と成果

課題に対する改善の捉え方、リーチ数などの計測はマンパワー不足であることと、評価の方法が難しいため、参加者数を計測している。本人にとって良し悪しを、支援者側の一方的な評価・判断ではできないことから、ボランティアとして参加した子ども若者の数を成果基準とする(ボランティア側として参加をした際には名簿を記入する)。30年度参加人数については、前年度に比べて減少しているが、センターの活動をとおして、復学や進学したり、子育てに対して前向きになったりという報告も得られた。

1) 事業の実施、運営体制

助成金の取得を控えたため、ほぼ全員がボランティア体制になった。転勤や就職、環境変化に伴う引継ぎや、先輩・後輩のノウハウ継承でつまづいた。もともと事業の性質から、事業自体が成り立つものではなく、一部の人に負担が強くなり、周囲の責任感も希薄化しやすい活動であったため、年度末に立て直しを図るため、センターの制度を見直した。

すべての事業はアウトリーチのスキルを活用しており、繁華街、SNS、スポーツの3本柱からなる。各事業、若いメンバーと社会福祉士が協力して実践している。助成事業は住友生命健康財団(コミュニティ・スポーツ助成:児童養護施設等出身者を対象としたフットサル)が50万円、市社会福祉協議会(中高生の居場所づくり)から10万円の計60万円。

2) 人材養成

アウトリーチ(直接接触型)研修の卒業生企画、派生として実践ふくし大学を開講。平成30年度からアウトリーチ研修は有志の研修事業となり、実践ふくし大学というブランドで実施した。スクーリングとゼミ形式で各教員の実践のもと、それぞれの現場で実践がおこなわれたが、センターの活動では活かされにくいこと、帰属意識につながりにくいなどの課題が挙げられた。

3) 連携事業

竹の子ボランティアサークルとの連携事業、のりたけキッチンや牧野コミセンでの子ども食堂を継続してきた。予算削減の必要性和ミーティングとの両立が難しいことから、年度末から月一回に変更。

4) 事業報告 (参加人数)

	種別	実施回数	小学生 中学生	高校生 未成年	20代	職員	合計
1. フィールドワーク (街頭パトロール・相談事業)	繁華街	50	9	280	176	42	507
	公式SNS※	27	いいね 239	RT 57	リプライ 1	エンゲージ 1953	インプレッション 29373
2. スポーツ・交流 (居場所づくり事業)	バドミントン	15	23	84	60	14	181
	フットサル	14	13	61	82	16	156
	ミーティング その他交流	104	2	460	296	143	901
3. まちづくり事業 4. シェルター・自立支援事業	今年度は実施せず						0
5. その他 非行防止の事業	アウトリーチ研修	4	48				48
	講演・学会報告等	17	1060				1060
全体事業報告		実施回数	小学生 中学生	高校生 未成年	20代	職員	合計
ボランティアとして参加した人数		187	47	885	614	263	1996
リーチ(インプレッション+講演)合計		44					30433

集計：黒川美津紀

平成30年度 講演・外部研修	従事者	対象人数
5/18(金)三重県高等学校家庭科教育研究会総会	荒井	50
5/30(水)愛知学院大学(地域連携学)	海・滝澤	30
6/6(水)愛知学院大学(地域連携学)	荒井	30
6/6(水)長野県東御市教育委員会	荒井	50
6/13(水)椋山女学園大学(看護学部)	荒井	30
7/4(水)金城学院大学(家庭支援論)	荒井	30
7/4(水)椋山女学園大学(文化情報学部)	荒井	50
7/7(土)労働社会学会第一報告/青山学院大学	荒井	10
8/22(水)北海道民生委員児童連盟	荒井	200
9/3(月)愛知県黄柳野高等学校講演	荒井・滝澤	40
10/15(月)東海学園大学(心理学部)	荒井	30
10/16(火)東海学園大学(心理学部)	荒井	30
10/22(月)苫前町教育委員会	荒井	50
12/2(日)NPO法人とりで(山口県岩国市)	荒井	15
12/10(月)三重県立名張青峰高等学校	荒井	300
1/17(木)愛知黎明高等学校	荒井	100
3/13(水)多治見市 地域子育て支援ネットワーク協議会	荒井・滝澤	15
※日本福祉大学は除く		1060

(2) 2018年度も収益事業は実施しなかった。

3 組織体制

正会員 (10名)、理事 (5名)、監事 (1名)、事務局 (2名)、ボランティア (26名)

4 会議に関する事項

【総会】

通常総会 2018年6月17日 14:00~16:00 正会員10名（うち出席10名）非会員5名、計15名

議案：平成29年度事業報告・決算報告と承認 平成30年度事業計画・予算（案）の承認

会場：名古屋市中村区則武1-16-8 第一Uコーポ 405 本法人事務所

【理事会】

第一回理事会 2018年6月17日 10:00~12:00

理事5名（うち出席3名） 経理1名、事務局1名 計6名

議案：平成29年度事業報告・決算報告と承認 平成30年度事業計画・予算（案）の承認

会場：名古屋市中村区則武1-16-8 第一Uコーポ 405 本法人事務所